

校長室の窓から ～夢の扉第5号～ vol. 55 R 3. 5. 6 (木)

聖火リレーが佐賀で行われます。

文責 学校長



～中間考査が近づいてきました。計画的な学習を。～

福島県をスタートに全国を回っている聖火が、5月9日(日)・10日(月)に佐賀県内をリレーします。武雄市には9日(日)の14:20頃に武雄競輪場前公園をスタートし、ゆめタウン→図書館→市役所→松原通りのルートを通って14:54頃に武雄温泉楼門にゴールする予定です。これに伴い、リレールートを中心に広範囲で交通規制が行われるため、交通混雑が予想されます。武雄高校周辺も車の出入りが一時的に規制されますので、ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。(交通規制時間は13:35～15:25の予定です。)

1 生徒会長選挙を行いました。次期会長は原田智太くんに決まりました。

4月27日(火)の7限目に次期生徒会長選挙の立会演説会及び投票を行いました。20日(火)から早朝の選挙運動が開始され、27日の演説会では、3名の候補者及び応援者の演説が行われ、それぞれが公約と想いを訴えました。投票の結果、2年2組の原田智太くんが当選しました。新生徒会のメンバーには、コロナ2年目の学校行事、特に武陵祭をどのように開催するのか、校則や制服の見直しについても取り組んでもらいたいと考えています。「唯一無二の誇り高き学校づくり」に向けて新生徒会メンバーの新鮮なアイデア・発想を大いに期待しています。



2 杵藤地区高校春季卓球大会で男子団体優勝、女子団体準優勝に輝きました。

4月29日(木)に行われた杵藤地区春季卓球大会において本校卓球部が団体戦で男子が優勝、女子が準優勝に輝きました。また個人戦でも男子シングルスで池田蒼輝くん(3-5)が準優勝、藤井颯人くん(3-5)・川内翔くん(2-5)が3位に、女子シングルスで岡村奈美さん(3-3)が準優勝、岸本フリアさん(2-3)が3位に輝きました。

3 今週の名言・・・松下幸之助の言葉です。

山は西からも東からでも登れる。自分が方向を変えれば、新しい道はいくらでも開ける。

【英訳】 You can climb a mountain from the east or from the west. If you change directions, you will find that any number of new paths open up.

【解説】日本の電器産業を牽引した松下幸之助氏の言葉です。昭和の世代には「ナショナル劇場」(月曜8時のドラマ番組)として放映されていた『水戸黄門』や『大岡越前』のスポンサーとして馴染みが深く「明るいナショナル」のオープニングの歌とともに「National」ブランドとして印象深い。「Panasonic」ブランドとしては、テレビが家庭に普及された頃にはテレビといえば「パナカラー」シリーズでした。大阪万博での「松下館」もインパクトがあり、大阪万博後の1971年に大阪城公園内の天守閣前広場に埋められた「タイム・カプセルEXPO 70」は、5000年後の6970年に開かれる時を待っています。さて今回の言葉は「富士山は西からでも東からでも登れる。西の道が悪ければ東から登ればよい。東が険しければ西から登ればよい。道はいくつもある。時と場合に応じて、自在に道を変えればよいのである。」というメッセージです。この言葉は決して安易な道を選択せよという事ではなく、「命を懸けるほどの真剣な思いでその道を進む。けれどもそれが進むべき道でないとわかったなら、ムリに固執せず、新たな道を見つけ出して前進することが大切だ」ということです。こうした思考や行動哲学が、幾多の経験のなかで輝きを増し、「経営の神様」とまで称されるような、幸之助氏独自の経営哲学が生まれていったのではないのでしょうか。確かに、山は西からも東からも登れます。北や南からだって登れるのです。目標に到達するためなら、どこから登ってもいいはずですが。山の別の方角なら、勾配のゆるい道やよく整備された道があるかもしれません。最初に選んだルートに固執して、無理に道なき道を進む必要も、急な崖を登る必要もないのです。本当に「頂上を目指したい」のであれば、「目標を実現したい」のであれば、どうしたら確実に頂上にたどり着けるかを考えることも時には必要です。武高生諸君、君たちの進路(大学・職業)を達成するルートも一つではありません。短大から四大に編入学(3年時)する道もありますし、大学院も別の大学から低いハードルで進む道(東大に合格するより、東大大学院に合格する方が易しい)も用意されています。そういうことも視野に入れて自分にあった最善の人生の選択を考えてみることも必要ではないでしょうか。

【松下幸之助について】日本の実業家、発明家、著述家。パナソニック(旧社名:松下電器器具製作所、松下電器製作所など)を一代で築き上げた経営者である。異名は「経営の神様」。その他、PHP研究所を設立して倫理教育や出版活動に乗り出した。さらに晩年は松下政経塾を立ち上げ、政治家の育成にも情熱を注いだ。(参考:「Wikipedia」より)

4 今週のお故事成語・・・「会稽の恥(を雪ぐ)」【問題】英語で表現すると?

敵から受けた恥。敗戦の恥辱のことを言う。(出典:「史記・貨殖列伝」より)

【由来】春秋時代、越王勾践が呉王夫差との戦いに敗れ、会稽山で和を請うてゆるされた。後、その仇を報じて恥を雪いだという故事から生まれた言葉です。敵から受けた恥を返すことを「会稽の恥を雪(すす)ぐ」と言います。

5 どこかおかしい日本語(その5)・・・どこが間違いかわかりますか?

- ①上や下への大騒ぎ ②陣頭指揮をふる ③顔をうかがう ④押し着せ ⑤心を仕留める

6 今週の一冊・・・司馬遼太郎の『歲月』上巻 (新潮社) です。

肥前佐賀藩の小吏の家に生まれた江藤新平。子供の頃から一種の狂気を持った人物だった。慶応三年、大政奉還を知るや「乱世こそ自分の待ちのぞんでいたときである」と、藩の国政への参画と自分の栄達をかけて、藩の外交を担い、京へのぼった。そして、卓抜な論理と事務能力で頭角を現していた。が…。

(参考：本書裏表紙説明より)

【解説】今春卒業した3年生を対象とした「さがを誇りに思う講演会」で「文学で見る佐賀」のコーナーで佐賀の偉人の活躍を紹介するために読んだ一冊で、上下2巻からなる小説です。教科書では主人公・江藤新平についての記述は「征韓派前参議の一人、江藤新平は郷里の佐賀の不平士族に迎えられて征韓党の首領となり、政府に対して反乱を起こした(佐賀の乱)」とわずか2行しか割かれていませんし、私自身これまでその程度の理解しかしていませんでした。しかし、この本を読むと江藤新平なる郷土の偉人(佐賀の七賢人の一人)がどのような思い(志)で国づくりに関与しようとしていたのかがダイレクトに伝わってきます。江藤新平なる人物を知るには最適な一冊です。

【作者・司馬遼太郎について】1923年大阪市生まれ。大阪外国語学校蒙古語科卒。産経新聞社勤務中から歴史小説の執筆を始め、56年「ペルシャの幻術師」で講談倶楽部賞を受賞する。その後、直木賞、菊池寛賞、吉川英治文学賞、読売文学賞などに輝く。93年文化勲章を受章したが、96年72歳で他界した。(参考:本書の著者紹介文より)

7 世界遺産を巡る(日本編)・・・第5回は古都京都の文化財 (世界遺産登録年：1994年)

◇対象文化財・・・上賀茂神社・下鴨神社・教王護国寺・清水寺・延暦寺・醍醐寺・仁和寺・平等院・宇治上神社・高山寺・西芳寺・天龍寺・鹿苑寺(金閣)・慈照寺(銀閣)・龍安寺・本願寺・二条城

【解説】京都は794年から1868年にかけて天皇が居所をおいた日本の首都であり、武家政権が政治の中心を鎌倉と江戸に移した時期以外、文化・経済・政治の中心として繁栄しました。京都は北、西、東の三方を丘陵に囲まれた盆地という地理的特徴を利用して建設された都市です。中央の平地部では、幾多の兵火に見舞われて火災が頻発し、多くの建物などが失われては再興されるという繰返しでした。しかし、周辺の高麗部は災害を免れ、起伏に富んだ自然地形を利用して建てられた大寺院や山荘・庭園がいまでも多数残されています。平地部にも**東寺**や**二条城**などの大きな規模の記念物や各種の伝統的な住宅様式を示す町並みなどの文化遺産が、条坊制の中に残っています。8世紀に創建された東寺には、11世紀から19世紀にいたる各時代の建物が建ち並び、16世紀に建造された二条城には、広大な敷地に当時の華やかな建物が残っています。

(参考:文化庁HP『日本の世界遺産一覧』より)



8 街角グルメを訪ねて・・・第5回は有田町の「上海飯店」(西松浦郡有田町南原丁53)です。

佐世保に向かうバイパスの左側にあります。自宅(武雄市)から近いので、よく利用しています。**コスパの高い**庶民向きの町の中華料理屋さんです。食事時には行列ができる店なので並ぶ(待つ)覚悟で行きます。座敷席もあるので大家族で行っても大丈夫です。2人前かと驚くほど大盛りの**皿うどん**(パリパリ麺・太麺の2種類あるので注文時に注意が必要です)が有名ですが、私はいつも「**ジンギスカン定食**」を注文します。中華料理店なのにジンギスカンが食べられる店で、佐賀県ではここだけだと思います。「**酢豚定食**」(長崎の中華街にある江山楼の味に似ています)もお勧めです。以前は定食メニューが在りましたが、今は定食はなく単品メニューのみになっています。食べきれない時は容器をもらって持ち帰りできます。(定休日：水曜日)

9 保護者の皆様へ・・・PTA総会は中止となりました。後日資料が配付されます。

【表面の解答】◇ to avenge a defeat ◇ to regain one's honor

【正解】①上を下への大騒ぎ②陣頭指揮を取る③顔色をうかがう④お仕着せ⑤心を射止める

【解説】①これは「上にあるべきものが下に、下にあるべきものが上になるほどの騒ぎだ」という意味なので、正しくは「上を下への大騒ぎ」。「飲めや歌えのどんちゃん騒ぎ」と混同した間違いと思われる。②「陣頭指揮」とは軍隊や団体の先頭に立って指揮すること。正しくは「陣頭指揮を取る」。オーケストラの指揮棒を振るのイメージからの誤りか。③「顔をうかがう」では単に相手の顔を見る行為に過ぎず、「相手のご機嫌をくみとる」のであれば「顔色をうかがう」が正しい。④本来は、悪い意味ではなく、江戸時代に幕府が役人や囚人に規定の衣服を支給するという意味。正しくは「お仕着せ」と書く。⑤「仕留める」は殺すという意味「熊を仕留める」などと使う。人間のハートは「射止める」ものであって、「仕留める」ものではありません。